

厚生文教委員会報告書

平成27年12月10日

備前市議会議長 田 口 健 作 殿

委員長 鵜 川 晃 匠

平成27年12月10日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

記

案 件	審査結果	少数意見
議案第125号 備前市立小学校、中学校、高等学校及び幼稚園設置条例等の一部を改正する条例の制定について	原案可決	なし

<所管事務調査>

- 備前まなび塾について
- 陰山メソッドについて
- 加子浦歴史文化館について
- 小中一貫教育について
- 中高一貫教育について

<報告事項>

- 備前市教育ロードマップについて（教育部長）
- 小中一貫教育基本計画について（教育部長）
- 小学校の閉校等について（教育総務課）
- 備前まなび塾の所管替えについて（生涯学習課）

《 委員会記録目次 》

招集日時・出席委員等	1
開会	2
議案第125号の審査	2
報告事項	2
所管事務調査	6
閉会	19

厚生文教委員会記録

招集日時	平成27年12月10日(木)	午前9時30分		
開議・閉議	午前9時29分	開会 ～	午前11時25分	閉会
場所・形態	委員会室A・B	会期中(第6回定例会)の開催		
出席委員	委員長	鵜川晃匠	副委員長	星野和也
	委員	橋本逸夫		津島 誠
		守井秀龍		立川 茂
		山本 成		森本洋子
欠席委員		なし		
遅参委員		なし		
早退委員		なし		
列席者等	議長	田口健作		
	委員外議員	なし		
	紹介議員	なし		
	参考人	なし		
説明員	教育長	杉浦俊太郎	教育部長	谷本隆二
	教育総務課長	芳田 猛	学校教育課長	磯本宏幸
	生涯学習課長	大道健一		
傍聴者	議員	掛谷 繁	石原和人	
	報道関係	読売新聞		
	一般傍聴	なし		
審査記録	次のとおり			

午前9時29分 開会

○鵜川委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの御出席は8名でございます。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会いたします。

本日の委員会は、教育部関係の議案審査、所管事務調査を行います。

なお、所管事務調査に先立ち、執行部からの報告事項をお受けいたします。

また、所管事務調査には教育長の出席をお願いしておりますので、御承知おき願います。

それでは、直ちに本委員会に付託された議案の審査を行います。

***** 議案第125号の審査 *****

議案第125号備前市立小学校、中学校、高等学校及び幼稚園設置条例等の一部を改正する条例の制定についての審査を行います。

議案書の22ページ、別冊の細部説明書をごらんください。

議案全体で御質疑ございませんか。

○星野副委員長 今回の条例改正に三国と神根が上がっていないんですが、今後どうする予定なのか、お教えてください。

○芳田教育総務課長 三国、神根につきましては、現在継続して協議中であります。その中で、覚書等締結が済みましたら、今回の南小学校と同じような形で条例改正を上げる予定になっております。

○鵜川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、議案第125号についての質疑を終了してよろしいか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

これより採決いたします。

本案は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

御異議なしと認めます。よって、議案第125号は原案のとおり可決されました。

以上で議案第125号の審査を終了いたします。

暫時休憩いたします。

午前9時32分 休憩

午前9時54分 再開

○鵜川委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

***** 報告事項 *****

執行部からの報告事項をお受けいたします。順次報告願います。

○谷本教育部長 それでは、私のほうから、教育ロードマップと、それから小中一貫教育基本計画について御報告させていただきます。

全ては子供たちのためにという基本理念で7月30日に策定された教育大綱の中に、各取り組み項目というのが33項目ございます。これらを視野に5年間を見通した作業計画、いわゆる教育ロードマップと、それから小中一貫教育基本計画を現在策定中でございます。実は、この定例会中に議員の皆さんに御提示させていただくつもりで作業を進めていたんですけども、総合教育会議と、それから最終決定をいただく教育委員会会議の日程の都合で間に合いませんでした。ただ、年内には完了予定といたしております。でき次第、連絡ボックスに入れさせていただきたいと考えております。今後の教育行政の進め方の御参考に見ていただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○芳田教育総務課長 教育総務課から、小学校の閉校等についての御報告をさせていただきます。

先ほど南小学校のお話もございましたが、三国小学校につきましては4月から保護者の皆さん、地区の皆さんと協議を重ねてまいりました。そうした中で、11月19日、覚書を締結させていただきまして、28年度末をもって閉校ということで合意していただいております。神根小学校につきましては現在継続協議中として、PTAの皆さんは承諾をいただいておりますが、あと地区との協議、調整が済んでおりませんので、それが年内中に御返答いただけるんじゃないかという形になっております。これも話がまとまりましたら、年内中に覚書を締結して、28年度末をもっての閉校を目指しているところでございます。

○大道生涯学習課長 現在、まなび塾につきましては学校教育課で行っておりますが、来年28年度からは生涯学習課で受けて授業を進めるということにしておりますので、お含みおきいただいたらと思います。

○鵜川委員長 ほかに。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

報告が終わりました。

報告についての御質疑を希望される方の発言を許可します。

○橋本委員 最後の報告なんですけど、何でもまなび塾が生涯学習課の所管になるの。このまなび塾というのは学校教育課の鳴り物入りで一生懸命やってくれている、不足する部分がいっぱいあるんだけど。またこうやって所管をころころ変えて、生涯学習課がやったら、春休みあんな長いインターバルを置かないで、ぱっぱとやれるわけ。どういう理由で所管を変えるわけ。

塾頭を呼んで。

○谷本教育部長 まなび塾につきましては、引き継ぎ事業になるんですけども、生涯学習課でやるべきか学校教育課でやるべきかというスタート時の話もございました。そんな中で、現在橋本議員も学校支援地域本部とか、放課後児童クラブとか、そういったものの一体的連携等という

ようなお話も聞いております。そういった中で、現在そういう連携を図っていくということから考えて、生涯学習課のほうがやはりふさわしいだろうと。

それから、あわせて現在、教育協力隊、地域おこし協力隊の中の教育に関する支援員というんですか、そういったものの募集をかけております。そういったところを生涯学習課に持って行って運営するということから、まなび塾もそういった形で運営していきたいと。地域おこし協力隊の支援もいただきながらという形で持っていきたい。あわせて、夏休み等のセミナーとか、そういった形のを組み合わせるという方向性を持って考えております。

そういった一連の関係で、生涯学習課に移して連携を図っていきたいということです。当然、教育委員会の中ですので、学校教育課が完全に離れてしまうというわけじゃなくて、その連携等を図るために生涯学習課という形で考えております。

○橋本委員 一元的に管理するということがあったら、今までの学校教育課が所管しておったほうが私は逆に都合がいいんじゃないかと。何かこの状態を見とると、面倒なものを違うところへ振れえという格好に思えてしょうがないわけなんですよね。もし、生涯学習課に移ったら、春休みのあの大きなインターバルがあるでしょう。2月ごろに休止になって、次にスタートするのが6月の前半だというふうな事態が解消されるんですか、生涯学習課が請け負ったら。

○谷本教育部長 その点も考慮の一点にはなるかと思いますが、すぐにそれが解消できるというのは、お約束ができかねるかと思いますが。

○守井委員 学校教育の一環の一部門という考え方と、生涯学習の一部門ということによる事業で、まなび塾の捉え方が若干変わってくるんじゃないかなと思えるわけなんです。所管はそれぞれ目的があるわけでしょうから。そのあたりの考え方はどんなんですかね。

○谷本教育部長 学びの基本というんですか、ベースっていうのが、やはり地域、家庭っていうのをこれからは重視していかなきゃいけないという考え方がございます。そういった中で、このまなび塾についてもより地域密着型に持っていきたい。それから、体験学習的なものとか、そういったものも取り組んでいくべきじゃないかなと。当面は夏休みとかそういったところが中心になってこようかと思うんですが、そういった形のを連携していきたいという思いがございませう。そういったことで変えていこうという考え方です。

ちなみに、まなび塾プラスというような形で、ちょっと体制変換をしていきたいと。あわせて、生涯学習課の中で、これはまだ先ですけども、まなび塾の係をつくりたいなという気持ちで考えております。

○守井委員 先ほども言いましたように、本筋の形のもものが若干ずれてくるということになりました。じゃあ、先に展開される状況も若干変わってくる可能性があるんで、そのあたりを特に最初に計画したように、学校教育の一環でもあり、連携してやっていただくということを忘れないようにお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○谷本教育部長 その点は十分配慮してやっていきたいと思ひます。

○**鶴川委員長** ほかに。

○**森本委員** 地域おこし協力隊のことですけど、資格は、教員免許をどれぐらい持たれている方を募集されているのか、また地域おこし協力隊ですから、地域的なものに限られる、備前市全体を捉えられてるか、まなび塾どれだけのかわりを持ってもらおうというふうに計画されているのか教えてください。

○**大道生涯学習課長** この地域おこし協力隊、教育協力隊がまなび塾を通して地域の子供たちを元気づける、育てるというようなことから、地域全体に波及するというごさいます、この教室1個に1人ということではなくて、もちろん複数持ちながら、4人募集しておりますが、その方全体で備前市全域に波及していただくということごさいます。

○**森本委員** ということは、先ほど言われたプラスアルファの部分で地域おこし協力隊の方にかかわっていただくというふうに捉えたらいいのでしょうか。

○**大道生涯学習課長** そういったことが主になってこようかと思ひます。

○**森本委員** 資格的には教員免許の関係なんかは募集要項に入っていないんですか。別にそういう部分は求めておられないのか。

○**大道生涯学習課長** 教員免許をお持ちの方がベストであります、意欲があれば可能ということにしております。

○**森本委員** ちょっとそうなら、まなび塾の本来の趣旨がなし崩しになるような気がするんですけど。

○**谷本教育部長** ちょっと誤解があつてあれなんです、決してまなび塾後退させるつもりで考へているわけじゃなくて、あくまでもプラス要素を加えていこうという考へ方でもってやろうとしております。備前まなび塾と、それから今現在あります学校支援地域本部、それからNPOとの協働つていうようなことも視野に入れてやっていきたいと考へております。

それから、教員免許は基本的に持っている方をベストということ採用したいという、そういうふうな形で募集はかけているはずです。

○**立川委員** 以前からまなび塾は学力アップの一助にするという旗を揚げてこられたんですが、どうも今のお話をお聞きするとシフトダウンの認識が強いですね。むしろ、学力向上の一助でいくんであれば、乱暴な話ですけど、教育長の直轄部隊とか、それだと何かグレードが上がったような感じもしますが、今回ちょっとトーンダウンというか、シフトダウンの感が否めないんですが、その辺は皆さんにどういうふうに御理解を求められるつもりなのか教えていただきたい。

○**鶴川委員長** これから所管事務調査を行いますので、教育長が入られてから、またそこら周りにはよろしくお願ひします。

ほかにごさいませんか。

○**橋本委員** このまなび塾を設立したときの大きな目的が学力アップということで、どちらかという私も指導員でおつた時期なんかは、やはり読み書きそろばん、そういうことに特化して

子供たちに教える、それから学習したことを忘れないように復習させるというような形でやってきた。それを今、部長の説明ではそれにプラスアルファで校外学習的な、きょうはみんなでどこか行こうぜとか、サツマイモ掘りに行こうとか、自然観察に行こうとか、そんな目的がぼやけてしまうような感じに聞こえたんです。

これは、塾頭である教育長の方針なんですか。

○谷本教育部長 教育長のお考えかと言われたら、当然これは塾頭の方針をもらって、こういう形で考えているところでございます。

学力向上もやはり地域があり、家庭があり、そういった背景のもとで成り立っていかなくちゃいけないというところは当然あると思いますので、そこに視点を移したいというのがあるというふうに私は理解しております。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、以上で報告事項を終了いたします。

説明員の入れかえをしますので、暫時休憩します。

午前10時08分 休憩

午前10時09分 再開

○鶴川委員長 委員会を再開いたします。

***** 所管事務調査 *****

所管事務調査を行います。

発言を希望される方は挙手の上、発言を願います。

○橋本委員 教育長にお尋ねをします。

我々もきょう、鳴り物入りで数年前に設置した備前まなび塾の担当が学校教育課から生涯学習課に移ったということを教育部長から聞いたんですけれども、私にとってはよくわからん理由づけと。塾頭自体はこれをどう捉えておるのか。

それと私は、以前確かにこれは一学校教育課がやるんじゃないかと、オール教育委員会で取り組む事業なんだということはよく聞いております。だから、生涯学習課も協力するのはわかるんですけど、やはりあくまでもメインになるのは、私は学校教育だと思っておったんですが、何でこのたびそういうふうに、どちらかという私にしたら後退しとんじゃないかと思えるような改編と目に映るんですが、もう少し教育長のほうから納得いくような説明をください。

○杉浦教育長 やはりきちんと皆さんに御説明ができていないというのは、私の理念が下に徹底していないんだなというところで反省をしているところですが、一番の目的は、やはり私が就任のときにも、地域の総合力で学力向上なり、落ちついた学校環境をつくるということを再三申し上げてきています。備前まなび塾も学力向上をメインに、ただ人間力を向上させる場として地域の力をおかりして設立されたというふうに認識しています。

今回、所管は移りますけれども、オール教育委員会で対応するというに何ら変わりはありませんし、特に学力向上でいうと、今数字ではあらわれていませんが、備前市で最も課題があるのは英語教育だと私は思っている。そういったところをまなび塾の場でもきちんと取り入れてまいりますし、後退というよりも前に進めるために今回の改編を行いたいというのが真意です。

やはり学力向上って、単に知識を詰め込むだけでは成立しないんですよ。人間としてトータルな教養を高めていくということは、何ら後退だとは思いませんよ。そりゃあ、例えば野遊びをするときはもしかしたらあるかもしれないけども、基本的には人間として生きていく力、学ぶ力を向上させるのがまなび塾のトータルの目的ですから、一部を取り上げて後退というふうに考えないでいただきたいんですね。

○橋本委員 私も備前まなび塾の先進地である大分県の豊後高田市に行政視察に行きまして、いろいろ勉強してきました。この備前まなび塾との違いをさんざん指摘して、ここはこうだよ、あだだよと、私もこうすべきじゃないかというようなことをいっぱい言ったことがあるんです。その中で、豊後高田市では幼稚園児を対象に、先ほど教育長が言われた英語教育、これをまなび塾でやっていました。だけど、こういうものは全てどちらかというと学力向上につながるような施策であったと。野山に遊びに行きましょうとかきょうは自然観察に行きましょうとかというような、そんなカリキュラムというのは私はなかったように思う。

それから、今までずっと私が不満を言うとしたのが、春休みに、本当に大切な時期に、2月から6月ぐらいまでまなび塾が休講になる、こんなばかな話はないよということを言っていたんですけども、それすらも解決できないで、何か今度生涯学習課のほうに移すんだというね。いろんなところに行くかもわからんというような、そういう説明を聞くと、何か学力向上という大きな大きな目的がぼやけてしまう、人間力がどうのこうのというような格好でね。

そりゃ確かに学力だけが教育じゃないという言われ方をされるんですよ。それによって、目的がぼやけてくるということが私は非常に危険じゃないかと思うんです。

それと、後で話題にしたいと思っておりますきのうのテレビのニュースを見て、市長はどえらいことをやろうとされているなと思ったんですけども。これはもう徹底的に学力向上のための施策なんですよ。それときょう聞いたまなび塾とが、何だこれはというね、ちょっと大きな乖離を覚えるんです。私の印象はそうなんです。教育委員会が学校教育課から生涯学習課に移すんだということでもう決めたんだということであれば、いたし方ないんですけどね、私はもう少し熟慮してほしかったなと思うんですが、どうでしょうか。

○杉浦教育長 まさに熟慮の結果であります。今まで学校教育課が確かに主導で頑張ってくれたとは思いますが、それで十分効果が出ていると委員お思いですか。

○橋本委員 出ていないから、ああしましょう、こうしましょうといっぱい提案はしとったんですけど、教育委員会が動かなかつたんじゃないんですか。

○杉浦教育長 今回の改革は、もうそのための第一歩というふうに私は認識しておりまして、私

の気持ちの中では最も前に進めたいのが英語教育なんです。これは、さらに小中一貫教育にもつながる部分ではありますが、学力テストは国語、算数、数学、理科しか結果が出ていませんけれども、実際に例えば中学校の英語の授業を見ると、私の目から見てもやはりかなりの課題が山積している状況なんです。それは、やはり国全体でもう小学校から英語が正式な教科になる、2020年に向けて大きく政策が前進しようとしているときに、備前市は全く国の政策と連動していないまま取り残されているというのが私の認識なんです。それを何とか埋めたい。もちろん学校のほうでも改革をしつつ、まなび塾も学校の改革と連動した形で改革をしていかなきゃいけない。そのときに、やはり学校教育課に何もかも抱えさせるというのが本当にいいことなのかどうなのかという議論をまずやりました。

特にそういう点では、地域の力をおかりしなきゃいけないところがたくさんあるので、これはやはり学校教育と地域の教育力というのを2本の柱にしてやっていきたいというのは真意なんです。

ちょっと例えが、恐らく私の思いと現場の思いがまだ徹底できてなかったためのことだというふうに思いますけれども、私はとにかく英語教育を突破口に、総合的な学習力という、生きる力を上げていくというのが真意であります。

○橋本委員 英語教育が大変大切だという認識は私も持っております。現在の市長も選挙のときに幼児期に英語教育をやりたいと思うんだと、大変すばらしいこと言いよられました。私もそれに呼応して頑張らしましょうと。ところが、まなび塾が私なんか提案する豊後高田市は幼児に対する英語教育もやっとならんと、備前市もぜひやってほしいなと言っても全然やってくれないし、それから今小学校の4年、5年、6年ぐらいからは文科省の指導で英語が入っていますけれども、それが1年生の段階までは備前市は一切おいてないですね。そういうふうなことで、もっと英語教育に力を入れて、このまなび塾でそういう低学年の子たちにも英語を教えるんだというような説明をしてくださりゃあ、私はああええなと思うんですけど、英語のえの字も出てこずに、何か校外学習的な、ちょっとみんなできょうはどっかへ行こうとか、早く言えば遠足かハイキングか、そういうふうなことを言われるんで、何じゃということになるわけです。そういうふうに、じゃあ例えば次年度からまなび塾に英語を取り入れると、しかも低学年からやるんだということでの募集になりますか。

○杉浦教育長 私はそのように考えて指示をしたつもりなんですけど、部下に徹底していなかったことに関しては深くおわびをいたします。

○橋本委員 教育部長、それでよろしいですか。

○谷本教育部長 そういうふうに再認識いたします。できるところからやっていきたいと思いません。

○橋本委員 よろしくをお願いします。

○磯本学校教育課長 小学校での英語の活動についてですけど、正式には学習指導要領の外国

語活動5、6年生で週1時間扱っております。それとは別に、教育課程の外ではありますけれど、例えば総合的な学習の時間とか、1年生は総合的な学習の時間ありませんので、時間外になりますけど、そういった時間で年間10時間程度ALTの方が入って英語に親しむ活動は取り組んでおります。

○橋本委員 課長、そうじゃなくて、今教育長はまなび塾で英語を教えたいと、いいことだと思うんですよ。私は以前から提案していましたから。だから、まなび塾で低年齢児に来てくださいと、公民館に来てくださいと、英語教育しますと。そしたら、親御さんは喜んで、よし、うちの子もという格好になると思うんです。しかもただですからね。だから、そういうふうに前向きな改革なら我々大いに賛成なんですよ。だから、ぜひ頑張ってやってください。来年から募集するのに、そういうことをきっちりうたってください。

○杉浦教育長 せつかくの機会なので、もう一点だけ目的が、恐らくこれまでの答弁の中で十分されていないと思うのは、要は格差の拡大を防ぐという意味合いも私は重要だと思っているんです。やはり、以前市長の提案でしたかね、塾へ通う子供に補助を出すと。私はそういうことよりも、塾へ通いたくても通えない子供たちのために学びの場を提供するというのも重要なことだと考えておまして、まなび塾はそういった場にもなってほしいということと、あとこれまでさまざまな積み重ねで、例えば幼児教育が教育委員会から切り離されたりといった経緯もありまして、教育長のコントロール下に十分幼児教育を組み入れられないもどかしさが今までありましたけれども、それは生涯学習課に移すことで、やはり全ての世代を対象としたまなび塾っていうのがむしろ学校教育課から離すことによって可能になるんじゃないかというふうなことを考えて、やはり小中一貫だけじゃなくて、幼・小・中が一貫して初めて系統的な教育ができるというふうに考えているので、そういった面も新しいまなび塾には盛り込んで進めていきたいという思いの中で、これはやはり学校教育課の中でとどめるよりは、生涯教育課できちんと全ての世代を対象にした教育といったものを一貫してやりたいがための提案だったという趣旨でございます。

○橋本委員 その話になると、また一言言いたくなるんですが、私も貧困の再生産は何としても阻止するべきだと。つまり、低所得者の児童・生徒には、やはり十分な教育で次にもまたそうならないようにするためには、教育が必要だと。ですから、この前一般質問でそういう子供たちは恐らく保育に欠ける子、保育の必要な子も小学生に多いはずだから、要保護、準要保護の子供たちは放課後児童クラブの費用を市が持ってあげて、それで放課後児童クラブにもっと学習の要素を取り込んだ格好で、少なくとも学校から与えられた課題、宿題は確実にこなして次の日持っていけるようにすべきだという提案をしたわけで、真剣にそれらを検討して下さりよんかどうかようわかりませんが、思いは同じです。登山ルートはいろいろと違って、頂上に行こうという思いは同じなんで、ぜひそこら辺はやってください。

私も通塾、私塾に行く費用を市が持ってあげようというようなことにするよりも、既存の制度を使うべきだと思っておりますので、ぜひ御検討ください。

○森本委員 済いません、私の理解があれなんですけど、教育長が言われた英語教育とまなび塾で入れていくということなんですけど、英語教育はやはりちょっと特殊だと思うんですね、英語の分野は。一般の主婦の方が算数や国語を小学生の子供に教えるっていうのはちょっとレベル的には厳しいかなと思うんで、そこら辺はどうしていこうと。教育長の中では、多分イメージがあってこういう提案をされていると思うんですけど、イメージで結構ですので教えていただきたいなと思うんですけども。

○杉浦教育長 そのために、教員免許を持った協力隊を募集しているのが一つ。それと、まだ具体的な名前は出せませんが、やはり外部のそういう教育支援機関がさまざまあります。そういったところの力を活用するというのも実は今検討をしております。

要は、具体的に皆さんもイメージされるような範囲の会社ですけども、その英語教育がただで受けられるとなったら、これは参加が飛躍的に伸びることも期待されるというふうに思います。

○森本委員 先ほど地域おこし協力隊の募集で、教員免許を持っているのがベストだけど、やる気を持っている方ならって言われたんで、そこら辺は使い分けをされるんでしょうけれども、総社市のほうが生活支援のセンターを開設していて、そこはやはり低所得者で学力がおくれている児童に関しては、県立大の学生に講師に来ていただいて、そのボランティアで参加した学生は単位をもらえるということで連携しているんですけども、そこは低所得者ということで大々的には募集をしてなくて、個別にそういう家庭の方の子どもを学力向上に高校進学に結びつけようという事業をされているんですけど、先ほど貧困のと言われたんで、教育長は将来的にはそこまで踏み込んでしようと思われていますか。

○杉浦教育長 将来的と言わずに、すぐにでも着手したい分野です。ただし、これには非常に慎重な配慮が必要で、要するに貧困だということが知られることで大きなマイナス、特にそこは配慮が必要なので、やはり一律、言葉は悪いですが、そういう貧困と貧困でない皆さん、要するに要保護、そうでない、一律に一定レベルの環境を提供していくといったことが必要になってきます。

ただし、やはりそういったことで表立って貧困対策には見えないかもしれないけど、結果として貧困層にきちんとケアが行くというような政策を目指しています。

○森本委員 その支援センターのセンター長さんから直接お伺いしたら、やはりこの制度はうまく回っていて、やはり中学校を卒業して進学は諦めていた子ども学生のいろんな話とか支援を受けて、高校進学を決めたという子どもたくさんいらっしゃるそうなので、ぜひともそういう観点から取り組まれるのであれば、進めてほしいとは思いますが。

○杉浦教育長 もう一点だけ委員の皆様へ申し上げておきたいんですが、備前市はさまざまな大学と連携協定を結んでいますね。ただ、これまでは必ずしも協定を結んで以降、それが十分生かされていたかというところ、私自身もちょっと取り組みが足りないなと思うところが多々あります。

例えば英語教育でいうと、中国学園などは非常に熱心に取り組んで定評もある学校でありますから、もちろんそういった大学生の力をまなび塾プラスに活用するといったことも視野に入れて、今検討してもらっているところでもあります。

○**鶴川委員長** 会議中途ですが、暫時休憩をいたします。

午前10時30分 休憩

午前10時45分 再開

○**鶴川委員長** 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

ほかにございませんか。

○**立川委員** さっきのお話で教育長の思いをお聞きすると、方向性をお聞きしときたいんですけど、小中一貫だとか義務教育学校の件、どうも英語特区という考え方に行き着くような気がするんですけど、そういうお考えがあるのかどうか、実際の今の指導要領にとらわれないということで10年ほど前からいろんなところで特区ということで、英語特区はかなり数が多かったような気がするんですけども、そういうお考えが念頭にあるような気がするんですが、その辺いかがですか。

○**杉浦教育長** 特区という考え方もちろん念頭にはあります。しかし、備前市内をとってみても、それぞれの中学校区でどういう教育を目指すのかっていうまず意思統一を図ることが大事なので、そこについてこれから道筋を決めていくということで、うちはもう英語で行きますというはっきりした地域と学区の意思表示がとれたところは、そういったことも考えてまいりたいと思います。

ただし、これからは特区ではなくても、英語教育が普通の時代になりますから、それを推進するという気持ちに変わりはありません。

○**立川委員** ありがとうございます。英語教育ということだけではなく、さっきおっしゃった人間力アップとか、特別な地域の学びっていうんですかね、そういうことを踏まえていこうとすれば、指導要領にとらわれないで、以前に備前焼が教科書にあるとかないとかというお話も出ましたように、地域の特性を学ぶといいますかね、そういったものをやろうと思えば、指導要領というのが大きな壁になると思いますので、そういうものを排除した特区の考え方、これ非常にあっちこちいろんなことでやっておられると思うんですが、今お聞きしたら、英語教育は、地域のコンセンサス次第ということですが、そういうふうな柔軟な考えはどうでしょう。

○**杉浦教育長** やはり地元の意見を尊重するスタンスがないとうまくいかないというふうに思っておりますが、かなり幅を持って、実態に即して対応していきたい、その意味では柔軟に対応していきたいというふうに考えております。

○**星野副委員長** まなび塾なんですけど、地区ごとに温度差が、課題が出てきていると思うんです。現状把握のために、オール教育委員会、教育長だけにというわけじゃないんです。オール教育委員会で各会場年数回ぐらい巡回していただければと思うんですが。

○杉浦教育長 私も何回か程度が非常に少ないといえば少ないんですけども、きちんと実態把握をしてから、本格的な来年度の取り組みへ進んでいきたいというふうには考えております。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○橋本委員 きょう実は、この委員会に出てきたら、教育委員会から陰山メソッドについて詳しく報告や説明があるものと期待をしてきたんですが、一切なされなかった。これについてちょっと疑義に感じておるんですが、どんなんでしょうか。なぜに報告をされないのか、説明をしてくださいませんか。わかります、言っていること。

○杉浦教育長 わかります、わかります。

たまたまきのう報道されてしまったということなんですけれども、陰山先生をお招きしたいというのは、私が市長にお願いをしました。それで、やはり陰山先生が全国で成功されている一番の要因というのは、反復学習なんです。例えば百ます計算については、皆さん御存じだと思いますけれども、百ますだけがクローズアップされているようなんですけれども、実は陰山先生は例えばきのうのとは別にメッセージという番組をごらんになった方もいらっしゃると思いますけれども、実際に学校の現場で先生方の教え方について非常に有効なアドバイスをいただけるということもあり、たまたま先日私が陰山先生のお話を伺ったりしたものですから、ぜひ備前にもお力をかしていただきたいというふうなことで、まず市長に言っていただいたというのが真相です。でするので、委員会に間に合わなかったのは申しわけありませんが、今後きちんと御説明をさせていただきたいと思っております。

○橋本委員 今後きちんと御説明させていただきたいって言われたんですけど、きのう私もテレビ報道を見てびっくりしたんですけどもね、やろうとしていることはいいことなんで、決して反対するものじゃない、ぜひとも賛成したいんですけども、来年早々にも導入したいと、来年早々ですよ、来年度じゃないですよ。そしたら、やはり少なくともこの委員会にはこの陰山メソッドとはこういうものであって、こういうふうにしたいんだというやはり教育委員会の思いを伝えんとだめなんじゃないの。

私、きのうテレビを見ていてね、市長の思いなんじゃないかと思っています。じゃあ、ほかの教育部長以下学校教育課長、この陰山メソッドについて十分研究されておりますか。これは教育委員会の方針ですか。私はね、教育委員会という組織の方針として陰山メソッドを導入しよう、できるだけ早いほうがいい、来年の早々にも、来年早々というたら3学期ですよ、3学期から入れようと、こういうものなんだと、委員の皆さんこういうものを導入したいと思うから、ぜひ御理解ください、御協力くださいと言うのが当たり前でしょう、これが組織なんです。教育長だけが知るとるか、市長が独断先行でやりよるとか、そんなのは組織じゃないと思うんですよ。ほかの課長さん、これについてよく知つとられますか。私きのう一生懸命調べたんですよ、あの後、パソコン等々で。皆さん知つとられますか。ちょっと意地悪な質問ですけど。

○谷本教育部長 よく知っているかと言われたら、よく知っているとはちょっと言えないと思

ます。当然メソッドとか百ます計算とか、そういったことで著名な方ということで、私自身直接お話を聞いたことはないんですけども、テレビで拝見したことはございます。

そういった中で、教育長のお話もありまして、来年度教員の皆さんの意識改革的な形でやっていきたいという思いでお願いに行っていただけという意識でございました。ですから、教員が集まる席での講演会とか、それから学力向上の研修会でのアドバイザーとか、そういった形で御協力いただきたいなという思いは持っております。

○橋本委員 そういった中で、やはりテレビの中で市長が陰山英男教授に対して、備前市の教育アドバイザーになってくださいとあって要請をする、その場で即座に教授は受諾するというシーンがあったんですよ。これって予算措置を伴わないんですか。それと、教育委員会は全て了承のもとに、この陰山教授に対して備前市の教育アドバイザーを要請したんですか。教育部長にお聞きします。

○谷本教育部長 予算については、来年度で先ほど申し上げた講演会とか研修会でのアドバイザーとか、そういったような形のことを考えております。

○橋本委員 だから、教育委員会で全然協議をされてないようなことが突然にパフォーマンスかなんかわかりませんが、テレビを通じて教育アドバイザーを依頼する、向こうは受諾する、もうこれって普通、商法でいっても民法でいっても、契約は成立しとんですよ。あとは議会が認めにゃならないんですけどね。そういうことで、こんな大事なことをいとも簡単にやってしまう。しかも、教育委員会からは報告も説明もない、私はだから報告、説明があるものと期待してきたんですけども、一切なされん。どういうことですか、これは。私はちょっと疑義に感じております。

○谷本教育部長 お言葉ではございますが、陰山先生は非常に多忙な方です。お願いしても受けていただけるかどうかはわからない。そういった中で、まずは市長からお声かけていただいたらのんでいただける可能性が高いだろうという話でお話を持っていったというふうに理解しております。その中で、アドバイザーになっていただけますか、いいですよって話なんで、当然これは予算化を考えていくべきという話で持っていけると思います。逆に、予算をつけても受けていただけなかったら宙に浮いてしまいますので、それはまた別の話と思います。

○橋本委員 先に予算をつけてお願いに行けということじゃなくて、教育委員会でこの人に教育アドバイザーを受けてほしいと、そういう意思統一があって、事前にそういう話があって、それで市長なり教育長がお願いに行く。私、教育アドバイザーに就任してくれるというのはいいことだと思うし、それから備前市に陰山メソッドを取り入れるということだっていいことだと思うんですけど、過程の問題ですよ、それに至る経過、経緯、過程の問題ですよ。もう少し組織として教育委員会が機能すべきじゃないかと。

それとあわせて、じゃあ何でそういうすばらしい報告をきょうのこの日に部長から、いや実はこうこうできのうお願いをしたら大変すばらしい方が教育アドバイザーを受けてくれましたと、

次年度予算計上しようと思いますんで、よろしく願いますというて報告ができませんのんですか。

○谷本教育部長 おっしゃることはよくわかりました。ただ、市長部局から受けてもらえたという、テレビで出たっていうのは聞いたんですけども、まだお話をしておりません。そういったこともございますので、委員おっしゃられるとおりに報告すべきだったんじゃないかと後から思いますが、ちょっとそこは失念しておりました。

○橋本委員 黙って、テレビ局が取材チームを京都まで連れていくことはないんですよ。恐らく市長がぜひ取材に来てほしいという取材要請をして、それで一緒に行くとんですよ。それもいいですよ、パフォーマンスでもいいですよ。そういうのが教育委員会の中でこうしたい、ああしたいといういろいろな意見があって、それに基づいて、市長に陰山教授へ頼んできてよという依頼を教育委員会側はなされたのか。テレビ報道ではそうじゃなくて、この件については教育委員会の了承が要るんだと。だから、教育委員会に承認してもらわなきゃならんんじゃないかってテレビでは言いよりましたよ。それは当然だと思う。だから、これが教育委員会主導でやられたものか、市長が単独やられたものかというたら、私は後者のほうが強いと思います。

○杉浦教育長 それは全然違います。私が市長にお願いをしました。ただし、教育委員会の中で情報共有がもしかしたら足りなかったかもしれない。私は、別に陰山先生に限らずに、一流の教育者、学識経験者を積極的に備前に呼びたいというのは再三申し上げています。結局、この間のノーベル化学賞の鈴木先生も、そういった私の日ごろの言動なり思いを市長が酌み取って呼んでくださったということですので、これは市長の意思というよりは、私と教育委員会が常日ごろからお願いしていることであります。

○橋本委員 そういうことであれば、私が受けた印象として曲解しておったということになるろうかと思うんですが、そういうことが十分な市長との打ち合わせのもとに行われておるのであれば、当然このきょうのこの委員会に報告もすべきだし、本当のことを言えば、事前にこういういい方がおられるんだと、受けてくれるかどうかわからんけれども、こういうこともやってみようと思うんだというようなことが一言、厚生文教委員会で委員にも相談もしくは報告があってもよかったんじゃないかなと。余りにもこの委員会を軽視しとりゃあせんですかということは私の意見として言うときます。ほかの委員の皆さんがどういうふうに思われるかわかりませんが。

○杉浦教育長 その点は、正直私受けてもらえるかどうかというのは、今回に関してはフィフティー・フィフティーでした。そういった場合でも事前に御相談をするということに関しては、今後心がけてまいりたいと思います。

○星野副委員長 きんのうの報道を見られてない方もこの委員の中でおられると思うんですよ。どうい報道がされたかというあたりだけでも説明をしていただければと思うんですが。

○杉浦教育長 私が聞いている範囲では、実はきのうメッセージという特集番組で、先日陰山先生が出席されたシンポジウムも含めて、岡山の教育再生について取り上げる番組がありました。

実は、その番組の関連取材というようなことで聞いておりましたので、ニュースで報道されるという話は一切RSKからありませんでした。ですので、当然その番組の後日談的に継続取材をされるんだらうと、私ももとマスコミ関係で思い込みがあったのかもしれませんが、ニュースで報道されるという意識がちょっとなかったものですから、ニュースはチェックしておりませんでした、申しわけありません。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**津島委員** 私は、その陰山氏とも会うたことも、名声も何も知らんのですが、その方が1足す2は3じゃというていうのを真似ればただでやれますが。それはできんのですか。

○**杉浦教育長** それは簡単なんですけども、実際に現場の教員の指導というのは絶対真似できません。実践的な指導をされますので、単に百ます計算だけで成果を上げられている方ではないので、メソッドはメソッドとしてあるんですけども、そういった子供たちへの指導というよりは、教員がどういう形で子供たちに接すると効果を上げるかというところの指導で、教員に対する指導で評価が高い方ですから、これは余人をもってかえがたいというふうに思います。

○**津島委員** 備前市の教育現場に携わつとる教員さんによろ勉強してもらって、ええ子供ができるように教育しなさいよというのを教育長の口から言うといってください。

○**杉浦教育長** はい。

○**鶴川委員長** ほかにございませんか。

○**橋本委員** 次に、生涯学習に関することていろいろとお尋ねをしますが、来年度、教育委員会では加子浦歴史文化館をどのようにされようとしておるのか。つまり、あそこの学芸員である館長がもう定年退職を迎えると。その後、加子浦歴史文化館にはどういう人員配置で臨もうとされておるのか、次年度ですね。長期的に今の博物館や美術館を統廃合するというふうな計画もおありだと聞いておるんですが、まだその内容は明らかにはされておりません。これもどのようにされようとしておるのか、まずはお尋ねをいたします。

○**大道生涯学習課長** 今おっしゃられたとおり、加子浦歴史文化館の館長は定年になります。その後の職員の配置については、はっきりは決まっています。ただ、来年度学芸員を採用するという事は内定していますので、その学芸員が加子浦の運営に携わるものと思っております。

ほかの館との統廃合につきましても、まだ詳細は決まっておられません。

○**橋本委員** 今度の職員採用で、学芸員を1名採用される予定なんですか。もう採用したんですか。

○**杉浦教育長** 先日、任用委員会がありまして、1名でしたが、将来的なことを含めて2名内定を出しました。

○**橋本委員** 現在、定年退職をされる方は別として、現在次年度も学芸員としての肩書で職責をやられる方は、備前市には何人おられるんですか。新採用の2名以外で、何人おられますか。

○**大道生涯学習課長** 2人です。

○橋本委員 吉永とか、それから埋蔵文化財センターは。

○大道生涯学習課長 吉永は現在兼務で入っております。埋蔵文化財については、調査員として入っていきまして、学芸員としては入っておりません。

○橋本委員 有資格者とお聞きしたんですけど、資格があるなしでいえば、埋蔵文化財センターとか、あるいは教育委員会の中にも学芸員の資格を持つ方がおられるんじゃないですか。

○大道生涯学習課長 市でいえば2人おります。

○橋本委員 例えば歴史民俗資料館に2人、教育委員会の中に何人、それから埋蔵文化財センターには何人というふうに、学芸員としての有資格者ですよ、何人おられますか。

○谷本教育部長 濟いませぬ、定かに把握してないので、後日整理した上で報告させていただいてよろしいでしょうか。〔「歴史民俗資料館2名、埋蔵文化財管理センター1名、生涯学習課1名」と後刻報告あり〕

○橋本委員 じゃあ、後で報告してください。

それで、今度学芸員を2名新採用されるということなんですけど、このうちの1名を加子浦歴史資料館に配属されるんじゃないんですか。その2名はどこへ配置しようとして採用されるんですか。

○杉浦教育長 そこについては、今の段階では今後総合的に検討して決めるとしか申し上げようがありません。

○橋本委員 この新採用した2名か、あるいは現在の有資格者を配属するかは別として、とにかく加子浦にも専属で1名は学芸員が配置されるというふうに認識しとってよろしいでしょうか。1名もおらんようになるというようなことは考えられんのじゃけど。

○谷本教育部長 濟いませぬ。現段階でははっきり申し上げられませんが、そういうふうな形で考えなきゃいけないなと認識はいたしております。正職、臨時どうなるかわかりませんが、考えるべきだとは思いますが。

○杉浦教育長 補足します。さらに申し上げますと加子浦はやはり有料の施設でありますので、有料の施設が手薄になるといった事態は避けるべきだというふうに、教育長としては思います。

○橋本委員 来年の4月1日以降のことが今どういうふうな配置になるかわからんというような、そういう情けない答弁は聞きたくなかったです。新採用の者を配置するか、あるいは現有のものを配置するかは別として、学芸員1名は必ず確保しますと、そこへ専属で配置しますという答弁が欲しかったんですよ。それはそのように認識しとってよろしいですか。今も教育長が答弁されたように、有料館であります。有料館については当然粗末なことじゃだめだと思うんですが、いかがでしょうか。

○谷本教育部長 そういう認識で進めて考えたいと思います。

○橋本委員 それと、やはり私もただ言うばかりじゃなくて、これらの生涯学習課が抱えておる博物館であるとか美術館であるとか、これは当然統廃合もしていかんやならんのじゃないかと

いうふうに私自身は思うとります。

それらをやはり教育委員会としても、じゃあどこをどうするかというようなこともある程度考えながら、今後の予算措置も含めて検討していただけたらと思う中で、以前のこの委員会で質問をいたしましたところ、年間の来館者数が26年度は、歴史民俗資料館が2,427人、加子浦歴史文化館が有料なんですけれどもほぼ同じ2,406人ということで、ほんのわずか歴史民俗資料館のほうが多いんですけれども、これは無料。日生の加子浦は有料。これ、例えば無料にしたらもっとたくさん入るし、それから今までいろいろと教育委員会のほうとあつれきがあるんですが、今の館長は、閑谷学校であるとか備前焼であるとか、もっともっとPRして備前のためにPRしたいと思っても、予算措置であるとか、それから加子浦は日生なんだから、閑谷学校や備前焼のことはせんでもいいというような言われ方をされてきたと。やはり、私はオール備前で取り組むべきで、今備前焼がどういう状況にあるかというようなことを考えると、日生だから備前焼の企画展はしなくていいとかというようなことじゃなくて、もっと積極的にPRすべきだと。

この前の委員会でも私、教育長にお願いをしました。そういう感じにならないのかなあと。やはり日生は日生だけのことを取り扱ってけということじゃ、私はさみしいんじゃないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 私も全く委員と同じ考え、認識であります。私、そもそも備前焼の勉強が足らなくて、実は村上館長の仲介で目賀先生に教を請いに参りました。それも館長と3人でお会いする形でそういう場を設けていただいたり、特に備前焼関係の企画展は私も何回か見ましたけども、非常に質が高いというふうに考えておまして、実は直近でも、例えば市の行事予定に、来年1月末まで行われているあそこの展示が掲載されないという、ちょっと申しわけない事案があって、それを早急に掲載をしてもらいましたし、やはりオール備前という考え方で、いいものはどこでやってもいいというふうに考えております。

○橋本委員 そうなんです。来年の3月末でもう退職されるということのようなんですけれども、物すごく一生懸命閑谷学校や備前焼のことをPRしようと思っても、なかなか予算的なものも伴わんし、そんなことせんでもいいというふうな感じで指導されてきた中でジレンマを感じておられたようですが、私は加子浦歴史文化館を無料館にしたら、あそこは五味の市が近接しております。ちょっと買い物のついでに見ていこうかという方がおられて、入館者数が飛躍的に伸びるだろうと。そこに入ったら備前焼もあるし、岡千秋さんの展示もあります。それから、閑谷学校のことでもPRしているということで、私は備前市のために物すごくいい効果が生まれると思うんですよ。ぜひとも無料化も含めて今後検討してもらいたいなというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 今、貴重な御提言をいただきましたので、委員会として真摯に向き合って検討していきたいと思えます。

○橋本委員 ぜひよろしく申し上げます。

○大道生涯学習課長 先ほどの学芸員でございますが、歴史民俗資料館に2名、埋蔵文化財管理センターに1名、生涯学習課に1名でございます。

○橋本委員 はい、了解です。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○星野副委員長 小中一貫教育についてお尋ねいたします。

学校教育法が改正されて、市区町村の教育委員会の判断で既存の小・中学校を義務教育学校にできるようになったわけですが、新しい委員さんもおられますので、どの程度の裁量が市教委に委ねられるようになったのかを教えてください。

○磯本学校教育課長 委員がどういう範囲でおっしゃられるのかちょっとわからないんですけど、例えば6・3制を5・4制にとかということでしょうか。

○星野副委員長 市教委で変えられるようになった部分ほどのあたりなのかというのを教えてください。

○磯本学校教育課長 一つは、学校の制度として現在小学校、中学校として別々にあるものを一貫校として義務教育学校という形で、小・中の9年間の学校を設置することができるということ、それは可能です。

その教育課程について、学習指導要領が小学校と中学校でそれぞれ分かれていますので、ベースは6・3制です。ただ、指導の仕方とか持ち方とかで、4・3・2とか5・4というふうな区切りを設けることは可能です。

卒業式自体も9年間の過程ですので、最後の9年目が本当の卒業式になりますけど、行事として例えば6年生のときに持つことは可能です。

それから、教員については当面、本当は小学校と中学校の免許を両方とも持っている教員が入るのがいいんですけど、それが今すぐにとするのは不可能な状況ですので、教員の免許法を活用して、中学校の免許で例えば国語を持っている者については、小学校の学習で国語の指導をすることは可能ですけど、ほかの教科の指導というわけにはまいりません。小学校については、中学校の免許を持っていないと、中学校を1人で指導することはできない。そこについてはそんなに変わるところはございません。

あとは、義務教育学校になった場合は、校長は1人で、今聞いているところによると、副校長と教頭という形で、小学校レベルの前期課程について副校長が1人いて教頭がもう一人いるという形の配置になるのではないのかなというふう聞いております。

大体それぐらいのところよろしいでしょうか。

○星野副委員長 一般質問で質問させていただいたんですけど、ちょっと答弁がなかったと思うんです。学校の形態をどうするか、施設一体型、施設分離型、小中一貫校とはちょっと違うんですが、近い取り組みの小・中連携型などがあると思うんですが、それぞれ違う形態をとられるのか。備前市はもうこの形態のみで行くのかというあたりが、決まっている範囲で教えていただけ

ればと思います。

○磯本学校教育課長 当面のスタートとしては、例えば三石の場合は施設の隣接型、伊里の場合は施設の分離型でスタートすることを考えております。形としては、小中一貫型の小学校、中学校でのスタートを考えております、義務教育学校ではなくて。将来的にそちらに移行するかもわかりませんが、当面はそういう形でのスタートを考えております。

来年度については、教育総務課で予算計上していただいて、例えば施設一体型について可能かどうかを調査していただくようになっています。そこで、可能な場合、今度は一体型の施設にするためにも大きな工事費かかりますので、そこら辺の検討に入って、理想的には本当に一体型にするのが一番理想的だと思いますけど、そういうことで進めることができたかなというふうになんかところは考えております。

○星野副委員長 一般質問の答弁で、教育長からメリットの部分はよく答弁していただいたんですけど、デメリットとなる部分というのはどういうところがあるのか教えていただきたいんですけど。

○磯本学校教育課長 一番のデメリットは、今の段階で始めると、中学校の教員の負担がふえるということです。中学校の授業をしながら小学校の授業にも幾らか入っていただくような形になります。そこが大きなデメリットかなと。それから、もう一つは、教員にとって、この準備段階も含めて、指導計画とかを小学校、中学校で相談しながら9年間のものに変えていく必要がありますので、その負担は大きいと思います。一番はそこがデメリットと考えております。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

○橋本委員 最近特に小中一貫教育が取り沙汰されておるんですが、2年余り前に、市長がマニフェストの中で、中高一貫教育をうたっておったんですよね。中高一貫教育なんか備前市でできるかよと、小中一貫のほうがいいわと私は思うとったんです。今、中高一貫教育は全く言われなくなって、小中一貫教育ばかりがクローズアップされとんですけど、今までに市長からは教育委員会に対して、中高一貫教育も検討するようにといった指示はなかったんですか。

○杉浦教育長 ございませぬ。市長と毎週1回定例のミーティングを持っておりますけれども、まずはやはり小中一貫を進めてくれということをおっしゃっておりますので、市長の口から少なくとも私が中高一貫教育について聞いたことはこれまで半年以上ございませぬ。

○鶴川委員長 ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようですので、所管事務調査を終わります。

それでは、これもちまして厚生文教委員会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

午前11時25分 閉会